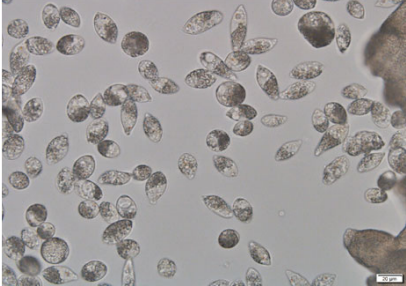


	ユーグレナのカロテノイド合成がアスコルビン酸-グルタチオンサイクルに及ぼす影響
	ユーグレナ研究会 第36回研究集会 (2021年10月30日[土]、帝京大学宇都宮キャンパス、オンライン)
	○玉木 峻 (1)、佐藤良介、腰塚悠貴※、朝比奈雅志、児玉 豊(2)、石川孝博(3)、篠村 知子 発表者【○】、本学教員、研究員および技術職員は【アンダーライン】、大学院生、卒研生または卒業生は【※】 (1) 現在の所属は理研・BZP、(2)宇都宮大、(3)島根大
	2021年10月に行われた上記研究会において、昨年度まで本学の博士研究員として在籍した玉木峻博士が上記演題を発表しました。本研究では、微細藻ユーグレナ ( <i>Euglena gracilis</i> ) のカロテノイド合成に関与するリコペン環化酵素 (EgLCY) のノックダウン細胞を用いて、アスコルビン酸-グルタチオンサイクルに及ぼす影響を検討し、ユーグレナにおけるカロテノイド合成は正常な葉緑体発達とアスコルビン酸-グルタチオンサイクルの誘導に寄与し、酸化ストレス障害から細胞を保護する役割を果たすことを見出しました。本研究は、宇都宮大学および島根大学との共同研究により行われました。
	 <p>リコペン環化酵素 (EgLCY) をノックダウンした細胞</p>